

## 春子生産上の留意点 ( )

### 1 はじめに

今年は、全県的に低温、多雨の傾向にあり、芽切ったしいたけが生長しづらい天候下にあります。

しかし、春子の発生期は大部分が桜が満開になる頃にピークを迎えることが多いため、今後の天気予報に注意して栽培管理を行ってください。

### 2 この春の気温と降水量

昨年と今年の盛岡市と宮古市の気温・降水量は以下の通りで、気温が低く降水量が多くなっています。

表 - 盛岡市と宮古市の気象

	盛岡市		宮古市	
	気温 ( )	降水量 (mm)	気温 ( )	降水量 (mm)
17.4上	6.9	12.0	8.6	3.5
4中	7.5	18.0	7.2	12.5
4下	11.2	37.0	12.0	8.0
18.4上	3.1	49.5	3.2	46.0

表 内陸部と沿岸部の栽培ポイント

地域	発生の様子	栽培管理上のポイント
内陸部	・寒さのため生長が遅く、芽切りはじめた状態である。	・ 前日の予報に注意し、気温が低くなるようであれば、露地栽培の場合には、ビニールなどの被覆資材（無ければダイオネット等）でほだ木を保温する。 ・ 人工ほだ場の場合、天気が良くない場合には気温の上昇が遅いことから、ビニールで内張りをして保温に努める。強風が無い場合には雨除け資材を展開して冷気の進入を防止する。
沿岸部	・南部では採取が始まったが、低温のため生長が止まり色が黒くなっているものが多い。	・ 芽切ったしいたけに1つずつ袋がけする。 注)いずれの場合も、気温の上昇が予想される場合、資材を除去しなければ、品質の低下を招く。

**6 その他** 乾燥用の灯油が高騰していますので、採取前には防風ネットのすそをあげて通風を良くし、きのこの水分を少なくしてから採取・乾燥するなど、燃料節減に努めてください。発生ピークのおよその目安は、一般に桜が咲き出してから約7日後の満開時です。

### 3 現在の市況

九州の作柄を見ると、良いどんこが少ないようです。このため色の明るい、丸いどんこが人気となる可能性があります。スライスは、品質の良いものが高値ですので断面が白くかつ広いものを生産するよう心がけてください。

### 4 生産のポイント

#### (1) 被覆資材の活用による保温

芽切ったしいたけが、寒さで生長が遅れることもあり、また、多湿のため黒く変色することがあります。保温や雨よけのため、ビニールなどの被覆資材を活用して、生長を促し変色を防止する必要があります。なお、暖かさが戻ったらすぐに被覆をはぎます。

#### (2) 散水

低温・多雨の天候下では散水は不要ですが、今後発生後に乾燥した天候になった場合には、午前中に散水を行い、日中はほだ場の温度を高めて生長を促進させるようにします。

### 5 主要生産県の状況

大分県や宮崎県では、昨年比約90%と言われており、平年作からやや不作の様様です。

静岡県では、平年作からやや豊作の様子で、どんこ系も多く品質が良い状況です。

なお、以上3県とも春子の収穫はほぼ終了したようです。

( 担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文 専門技術員 伊東茂敏 )

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 TEL 019-697-1536  
岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410  
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>